

総合的な学力の育成

総合的な学力向上パッケージプラン（令和8年度）全体像

方向性	取 組	対象	取組によってめざす姿
学びの定着	【新規】学習動画コンテンツを活用した学習支援のモデル実施	こども	こどもが主体的に学習に取り組み、 習熟度に応じた学びを深める
	【新規】家庭学習のてびきの作成	こども・ 保護者	こどもや保護者が家庭学習の意義を 理解し、こどもが授業とのつながりを 意識して家庭学習に取り組む
学校力向上	【新規】学力向上アドバイザーの派遣	校 長	校長が学校の実態に応じた学力向上 の取組を組織的に実施する
授業改善の加速	【拡充】学び深化プロジェクトの実施	教 員	教員がデータを踏まえた調査研究や 主体的な研修に取り組む
	【拡充】学びのインフルエンサーの派遣		教員が「学びのコンパス」に基づく 授業改善に継続的に取り組む
	【拡充】授業改善に資する研修の実施		
＜各取組の基盤＞ こどもの学力の変容把握と教育活動の点検・評価		【継続】IRTによる堺市学力・学習状況調査の活用	

【新規】学習動画コンテンツを活用した学習支援のモデル実施

【目的】

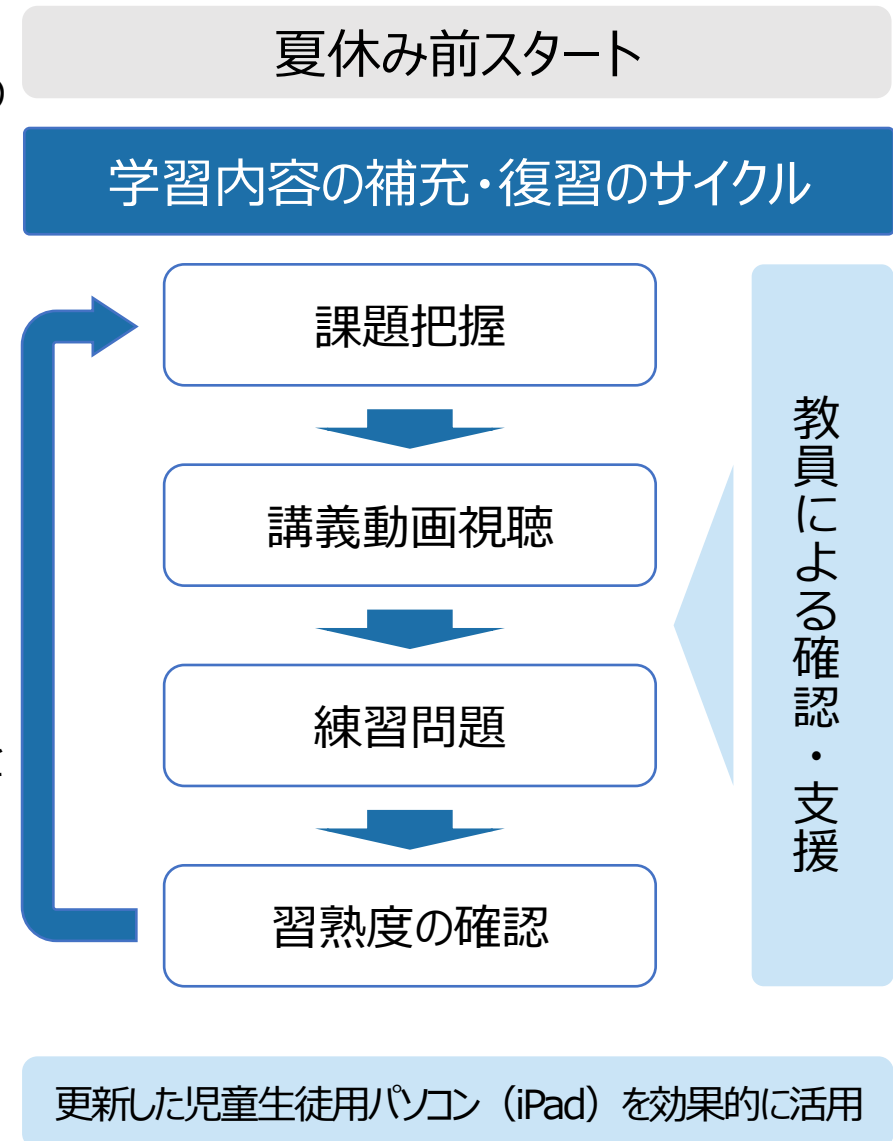
- 個々のこどもの状況に応じた学習内容の補充や復習の支援
- 基礎的・基本的な学力の定着と家庭学習等の充実

【内容（令和8年度は中学校7校でモデル実施）】

- 講義動画（オンデマンド）の視聴
 - 講義動画の視聴を通して学習内容を理解
- 練習問題の実施
 - 学習内容についての理解の確認
- 習熟度の確認
 - 習熟度を確認するチェックテストなどで個々の課題を把握

【効果検証】

- 期初・中間・期末の評価テストで学力の伸長を測定



【新規】学習動画コンテンツを活用した学習支援のモデル実施

【現状】

- 5月 モデル校とのキックオフミーティングの実施
- 6月 教員向け研修の実施
生徒向け使い方講座の実施
- 6月下旬～7月 学習動画コンテンツの活用開始
評価テスト・生徒アンケートの実施
生徒・教員及び管理職にヒアリング

【今後の見通し】

- 夏休みに宿題配信、家庭学習での活用の推進
- モデル校7校・教育委員会で活用事例等の共有・効果的活用に向けて継続的な協議
- 7、9、2月に評価テスト・生徒アンケート及び生徒・教員・管理職へのヒアリングによる効果検証



■モデル実施校7校へのアンケート・ヒアリング結果

生徒の声

- 英語は発音を確認できるので、楽しい。AIじゃなくて人が教えてくれるのも良い。
- 問題が選択式だから分かりやすい。たまに難しい問題もあるから飽きない。
- 授業で難しかったところを、動画を視聴してもう一度確認してみようと思う。

教員の声

- 授業の最後に確認テストを配信したり、事前に動画を視聴させたりすることで、学習内容をより深く理解させることができると感じた。今後、段階的にその効果を見ていく。
- 動画は要点がまとまっていて、生徒にとってわかりやすいと感じた。
- つまづいた箇所の動画が紹介されるなど、自学自習を促し、不登校の生徒も活用できると感じた。

管理職の声

- 教員は前向きにとらえて様々な活用の可能性を探ろうとしている。
- 効果的な活用方法を明確化し平準化するなど基礎学力の向上を軸にしようと考えている。

【作成のポイント】

家庭学習 に関する課題

家庭学習を「全くしない」と答えた児童生徒の割合が10%程度であり、全国と比べて5%程度高く※、家庭学習の意義が十分に伝わっていない可能性がある。

※令和7年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）

てびき作成の 目的

- 1 家庭学習の習慣形成と意義の浸透
- 2 こどもの自主性の伸長と学習内容の定着

対象

こども・保護者

構成コンセプト

保護者がこどもに具体的に声かけができるような工夫や仕掛け

各種調査等のエビデンスをもとに基本的な生活習慣や家庭学習習慣の重要性を効果的に発信

こどもが学習に取り組み
たくなる情報

声かけ例や関わり方の
ポイントを紹介！

データで分かる！
生活習慣が学力や心
に与える良い影響！

やる気を引き出す
ヒントやエピソードを
掲載！

位置づけ

これまで各学校でこどもの実態に応じて作成・配付してきた家庭学習のてびき等を補完し、堺市のすべてのこどもが活用できる考え方や意義を示すことにより、各学校の家庭学習の取組を下支えし、後押しするもの

【てびきの構成（案）】

○ 家庭学習の意義

→家庭学習の意義を理解することで、家庭学習の効果を高める。

○ 基本的な生活習慣

→睡眠や朝食、スマホの使い方など、家庭学習の基盤ともなる生活習慣を整える。

○ 自分に合った学び方

→どのような学び方が自分に合っているのかを知ることで、家庭学習を進めやすくする。

○ 家庭学習の促進につながる情報を掲載・集約 <家庭学習ポータル>

→家庭学習に関する情報や児童生徒用パソコンの活用方法などを共有し、家庭学習習慣の定着につなげる。



○市ホームページ等に「てびき」を掲載することにより、簡単に閲覧可能とする

○随時、更新することで常に最新の情報を掲載

【新規】家庭学習のてびきの作成

【てびきのイメージ】

○家庭学習の意義

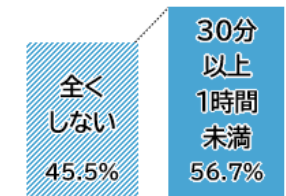
必要性を文章で表記するだけでなく、客観的な学力調査等のデータを示す予定

家庭学習で深まる3つの学び

毎日取り組む習慣をつくろう

- 全国学力・学習状況調査には、「学校の授業時間以外に1日あたりどれぐらい勉強をしているか」という家庭学習の時間についての質問があります。その結果を見てみると、家での勉強を「全くしない」人よりも、「30分以上1時間未満勉強する」人の方が、正答率が高いことがわかりました。このことから、毎日少しずつでも家庭で学習する習慣をつくるのが大切です。
- 家庭学習は宿題をすることだけではありません。加えて、本を読むこと、気になることについて調べる等も立派な学びです。自分が取り組みやすいことからまずは取り組み、習慣をつくっていきましょう。

「学校の授業以外にどれぐらい勉強をしているか」と算数の平均正答率の比較



R7 全国学力・学習状況調査 小6

○基本的な生活習慣

早寝・早起きをする、朝ごはんを毎日食べることやスマホの使い方についてルールを決めることなど、生活習慣を整えて安定した学習習慣を形成するためのポイントを掲載予定

1 早寝・早起き・朝ごはん

- ・早寝をして、十分な睡眠をとることで、脳と体をしっかり休めることができます。
- ・早起きをして、ゆとりをもって一日をスタートさせましょう。
- ・朝ごはんは、体と脳のエネルギー源です。必ず食べてから登校しましょう。

～ポイント～

- ・小学生は9～10時間、中学生は8～9時間の睡眠が目安です。
- ・朝の光を浴びると、体内時計が整い、元気に活動できます。



2 スマホやゲームの時間を決めよう

- ・使う時間やルールを自分で決めて、計画的に使いましょう。
- ・長時間の使用は、睡眠不足や学習への集中力の低下につながります。
- ・「使う時間を決める」「使わない時間をつくる」ことが大切です。

～ポイント～

- ・平日は○時間まで、夜○時以降は使わないなど、家族とルールを決めましょう。
- ・勉強中や食事中、就寝前は使わないようにしましょう。



【新規】家庭学習のてびきの作成

○自分に合った学び方

自分に合った学び方を知り、家庭学習の中で試してみることで、汎用的な学び方の獲得につなげられるよう、具体的なアプローチを掲載予定

「〇〇に向かってがんばりたい！」とき

あなたはどちら？

A. 計画を立てて、計画どおりにすすめていくことが好き。
B. もっと、良い方法はないかなと考えながらすすめていくことが好き。

A 計画 (けいかく) 的タイプ
計画的に学習をすすめていくことが得意なタイプ

テスト2週間前だな、今日からテストに向けて何をすればいいか確認していこう。

テストの範囲や内容を確認し、「何をするか」のチェックリストを作ってみよう。見直しをもつことで、落ち着いて学習を進めることができます。

B 柔軟 (じゅうなん) 的タイプ
今の自分に合う学び方に変えていくのが得意なタイプ

昨日のやり方は少し合わなかったから、今日は変えてみよう。

学習を進めながら途中で学習のしかたを見直すことで、より自分に合った方法を見つけることができます。

○家庭学習ポータル

画一的な情報ではなく、こどもや保護者が行動に移すような、リアルな情報や、その情報を見ってもらう工夫をふまえて作成し、随時情報を更新予定

堺版 家庭学習ポータル

- オリジナルメニュー** すぐに取り組める堺オリジナル問題を掲載
- 生活習慣クイズ** 生活習慣のクイズに答えることで、望ましい生活習慣を学習
- 児童生徒広場** こどもが作成した問題や学び方を共有
- 保護者メニュー** こどもへの声掛けなど保護者の困り感を共有
- 探究学習リンク** 探究学習ができる外部リンク集を掲載

【新規】家庭学習のてびきの作成

【今後の見通し】

- より実効性のある「てびき」とするため、実際に「てびき」を活用する方々へ広く意見聴取するなど、重層的な取組を進める。
- これらのプロセスを経て、こども・保護者・教員の納得感及び当事者意識を醸成しながら、2学期中の配付を予定。
- てびきに掲載予定の内容の一部を夏季休業前にホームページで先行配信する。

【実効性を高める方策】

- 小学生、中学生の意見を聞き、こどもが学習に取り組みたくなる内容の充実を図る。
- 堺市PTA協議会とも連携し、保護者の意見を聞き、声かけの工夫等、家庭でできる取組内容の充実を図る。
- 教員、管理職の意見を聞き、学校(群)で効果的に家庭学習の推進を図ることができる内容とする。
- 全国学力・学習状況調査等の調査結果からみられる基本的な生活習慣と学力の関連性等を示すなど、こどもや保護者に響く情報を発信する。

【配付後の効果検証】

- こども・保護者アンケート等（各学期末に実施）
家庭学習時間の変化や、家庭学習の意義に関する意識の変容を測定する。

【新規】学力向上アドバイザーの派遣

【目的】

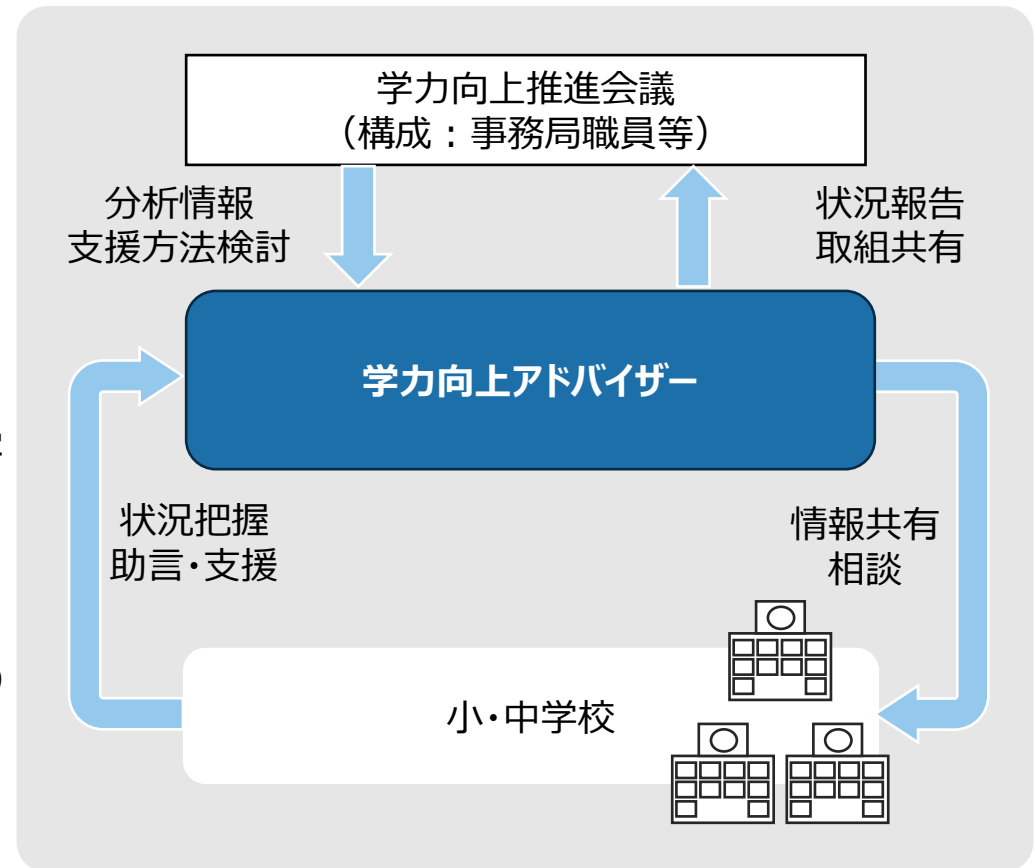
- 学校の実態に応じた学力向上のための取組の充実
- 校長のマネジメントの支援

【内容】

- 学力向上アドバイザー（元校長）が新任校長を中心にマネジメントの支援を目的として学期に1回以上、学校訪問を実施
- 新任校長に加えて、希望校に対する訪問を実施
- 各種調査データを検証・分析し、学力向上の取組を助言・支援
- 学力向上推進会議において今後の支援方法や追加で実施する学校訪問（プッシュ型派遣※）の検討

【効果検証】

- 管理職アンケート・ヒアリング（各学期）
 - 各校の学力向上の取組の成果を確認



学力向上アドバイザーの支援の流れ

- 1学期：各種調査のデータ、学校訪問に基づく状況の把握
- 2学期：学力向上推進会議に基づき抽出した学校を中心に支援
- 3学期：各校の取組の評価、今後の方向性の示唆

※プッシュ型派遣：学校からの要請を待つのではなく、学校の潜在的なニーズをいち早く把握し、支援につなげる取組

【現状】

- 4月 すべての新任学校長への学校訪問を開始
支援希望校の決定
- 6月 支援希望校への学校訪問を開始
管理職を対象にアンケート実施

【今後のスケジュール】

- 7月上旬 第1回学力向上推進会議の開催
- 9月以降 プッシュ型派遣を開始、学校訪問（2学期）
- 12月上旬 教員及び管理職対象のアンケートの実施
- 12月下旬 第2回学力向上推進会議の開催
- 1月以降 学校訪問（3学期）
- 3月上旬 教員及び管理職対象のアンケートの実施
- 3月中旬 第3回学力向上推進会議の開催



【新規】学力向上アドバイザーの派遣

■ 派遣校へのアンケート・ヒアリング結果

A管理職の声

- アドバイザーが授業を参観し、学力調査分析からみられる課題と結び付けて今後の授業改善に必要な取組を示していただくなど、大変貴重な気づきを得た。
- 感覚的ではなくデータに基づいた資料を校内で共有することで、課題が明確となり、今後のあるべき方向性が見えてくるということを改めて認識した。

B管理職の声

- 本校の研修テーマ「発問の工夫」を踏まえ、事前の校内打ち合わせから参加していただくなど、継続的にアドバイザーからの的確な指導・助言を受けた。
- 成果として、発問の工夫を生かした授業実践の公開、夏季研修での課題の焦点化、さらに2学期以降の授業実践の充実に向けての方向性等、「発問の工夫」を更に進めるための視点を得た。

C管理職の声

- 自分の思いの浸透や学力向上の取組は重要でありながらも、それらの取組の検討や効果的な実行に当たっては、教職員の負担軽減も両輪で考える必要があることから、アクセルを踏み込めていないところがあった。
- 実際の取組の目的や効果の共有による納得感の醸成など、やりがいを感じながら進める方策を学んだ。

【拡充】学びのインフルエンサーの派遣

【目的】

- 「学びのコンパス」に基づく授業改善の加速

【内容】

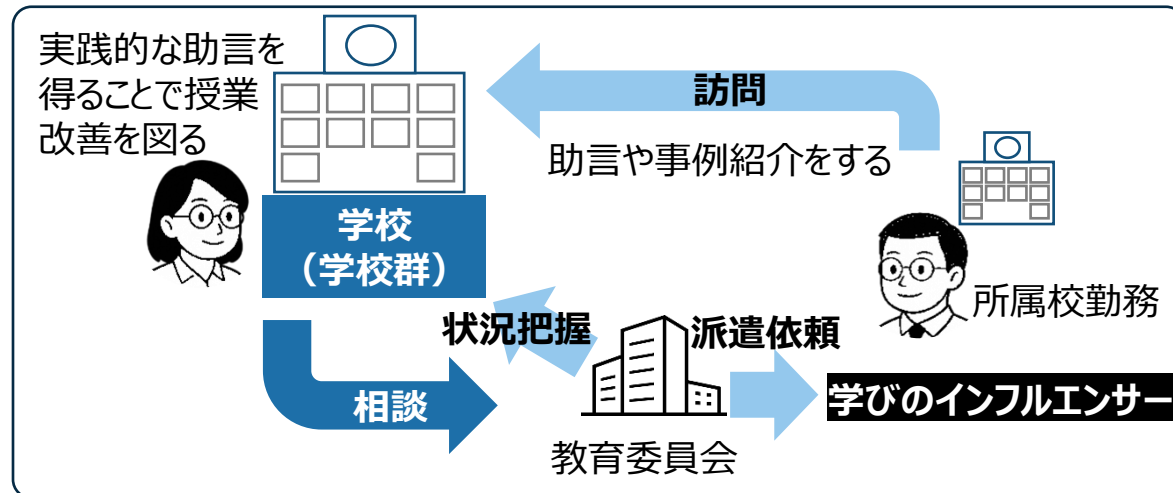
- 優れた授業実践を発信できる教員を学びのインフルエンサーとして配置
- 多くの学校が研修等を実施している水曜日を派遣日とし、重点的に実践的な助言を行う。
- 授業改善につながる資料を作成し、全市へ発信
- 令和8年度より学びのインフルエンサーを増員し、学校への派遣を充実

【効果検証】

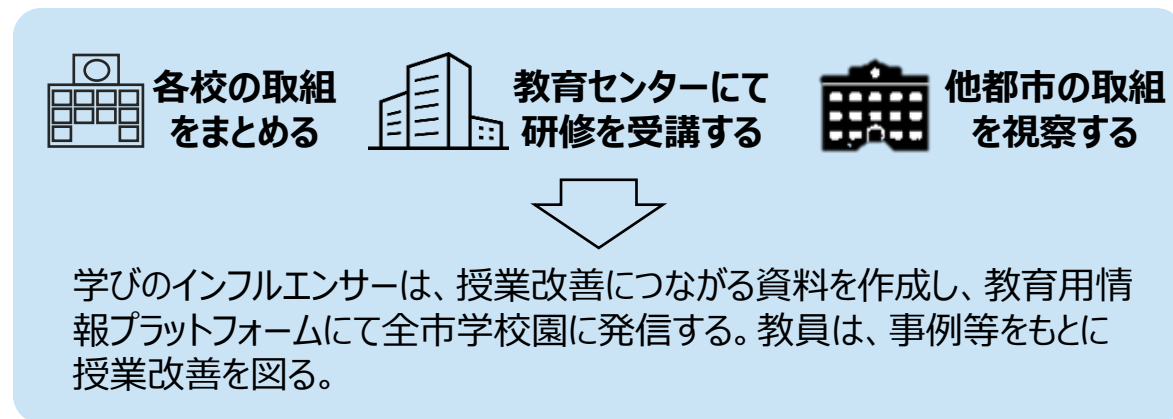
- 派遣後の教職員・管理職ヒアリング
- 随時、各学校の授業改善の状況を確認

【学びのインフルエンサーの業務】

授業改善の伴走支援



授業改善のための資料作成・発信



【拡充】学びのインフルエンサーの派遣

【現状】

- 4～5月 教育センターでの研修を受講し、ICT学習支援ツールの活用場面の理解や、「学びのコンパス」について対話を通して理解するなど、伴走支援の基礎を形成
- 6月以降 複数の小・中学校に分かれて伴走支援を実施
- 最新の教育の動向を学べる国内最大級の教育イベント「New Education Expo」に参加するなど、ICTや生成AIの活用、校務DXなど、これからの本市教育の推進に資する知見を吸収



【今後のスケジュール】

- 7月下旬 校内研修への派遣等の実施
- 8月下旬 総合的な学力向上研修会等で全市へ実践事例の発信
- 9月以降 学校の潜在的なニーズをいち早く把握し、授業改善に向けた支援の開始
(プッシュ型派遣)



【拡充】学びのインフルエンサーの派遣

現時点での効果～派遣校へのアンケート・ヒアリング～

学びのインフルエンサーの声

- インフルエンサーには、他の自治体の実践を学び、研修を積む機会が確保されており、自校の授業改善を推進しながら、その実践を堺市内学校に発信できるなど、自校だけでなく、派遣校の授業力の向上を支援できていることに、この業務のやりがいを感じている。

教員の声

- 多くの視点での助言が、貴重な学びになった。自分の授業がどれだけこどもに伝わっているのか不安であったが、インフルエンサーとのふりかえりの中で、意図したことを進めるうえでのポイントが明確になった。
- 授業参観後の、丁寧なフィードバックでは明日からの授業で取り入れられそうな工夫を多く得ることができた。授業参観後に実施する校内における討議会においても、実践例を含むアドバイスは本時の授業だけでなく、汎用的に活用できる授業技術として学ぶことができた。

管理職の声

- 校内の意見交換に加えて、インフルエンサーが客観的な視点で授業を見てくれることで、本校教員も新たな視点を得ることができた。

【拡充】学び深化プロジェクトの実施

【目的】

- 教職員の主体的な研修・研究の推進
- こどもの深い学びにつなげる教職員の研究力の向上

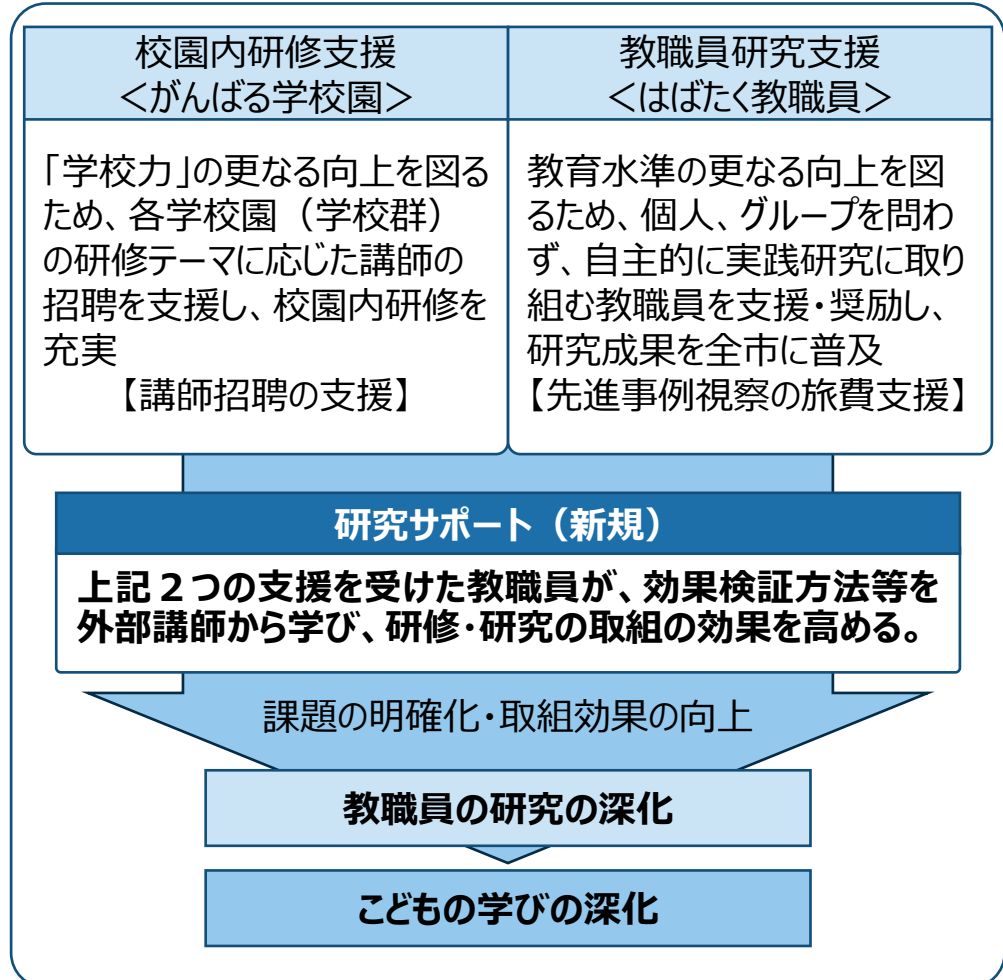
【内容】

- 校園内研修支援 <がんばる学校園>
校園内研修への講師招聘支援
- 教職員研究支援 <はばたく教職員>
先進事例視察にかかる旅費支援
- 研究サポート（新規）
学校の教育活動への効果的な還元を図るため、外部講師から実践研究の効果検証方法等を学ぶ機会を設定

【効果検証】

- 学校園から提出を受ける研究計画（年度当初）や報告書（年度末）の成果指標等の確認

学び深化プロジェクト



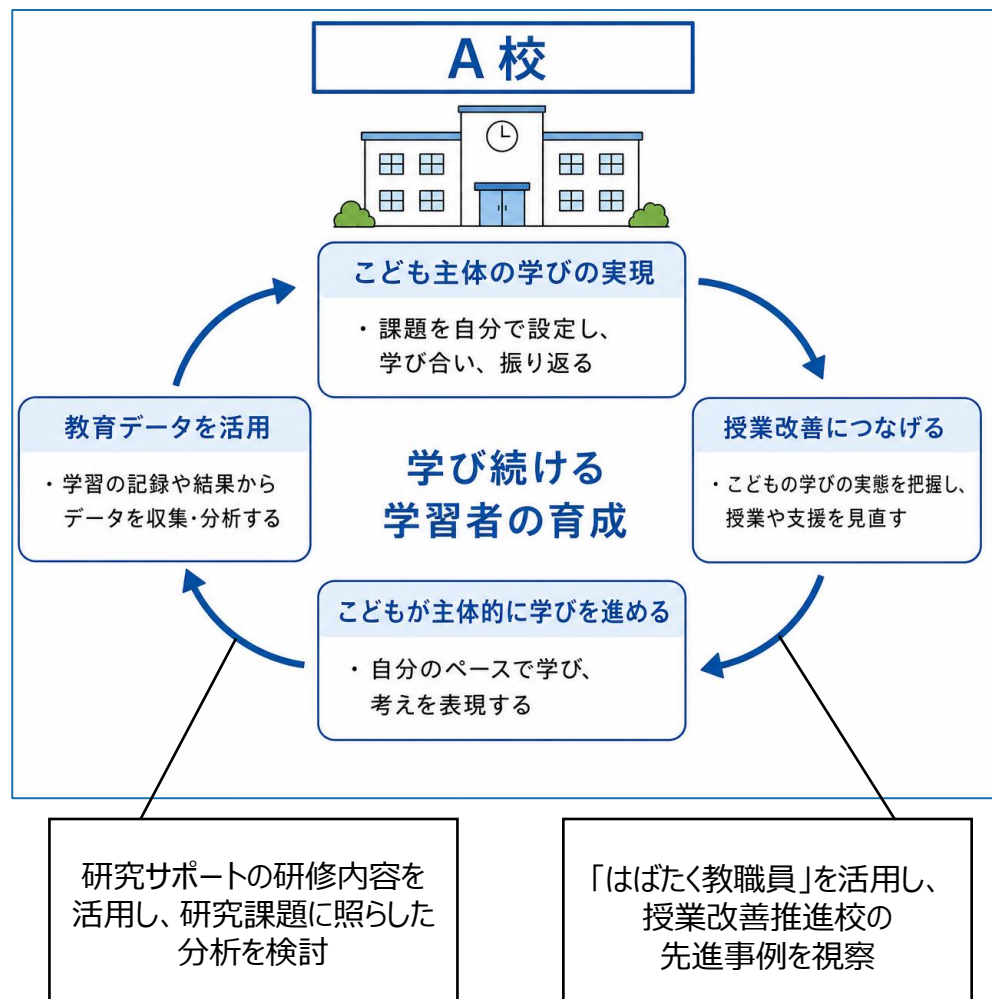
【現状】

- 「がんばる学校園」「はばたく教職員」の申請があり、支援校を決定
- 研究サポートについては、国立教育政策研究所の職員を講師として招聘する予定
- 各校の申請内容について、ヒアリングを実施し研修内容を検討

【今後のスケジュール】

- 7月以降 各校の申請に基づく支援を実施
- 12月 各種調査結果データの活用方法について研修会を実施
- 1月 伴走型訪問研修を実施
- 2月 学校の研究の成果を教育センター紀要にて発信
- 3月 各校での研究推進に向けたオンデマンド研修の実施

研究概要（例）



【拡充】授業改善に資する研修の実施

【目的】

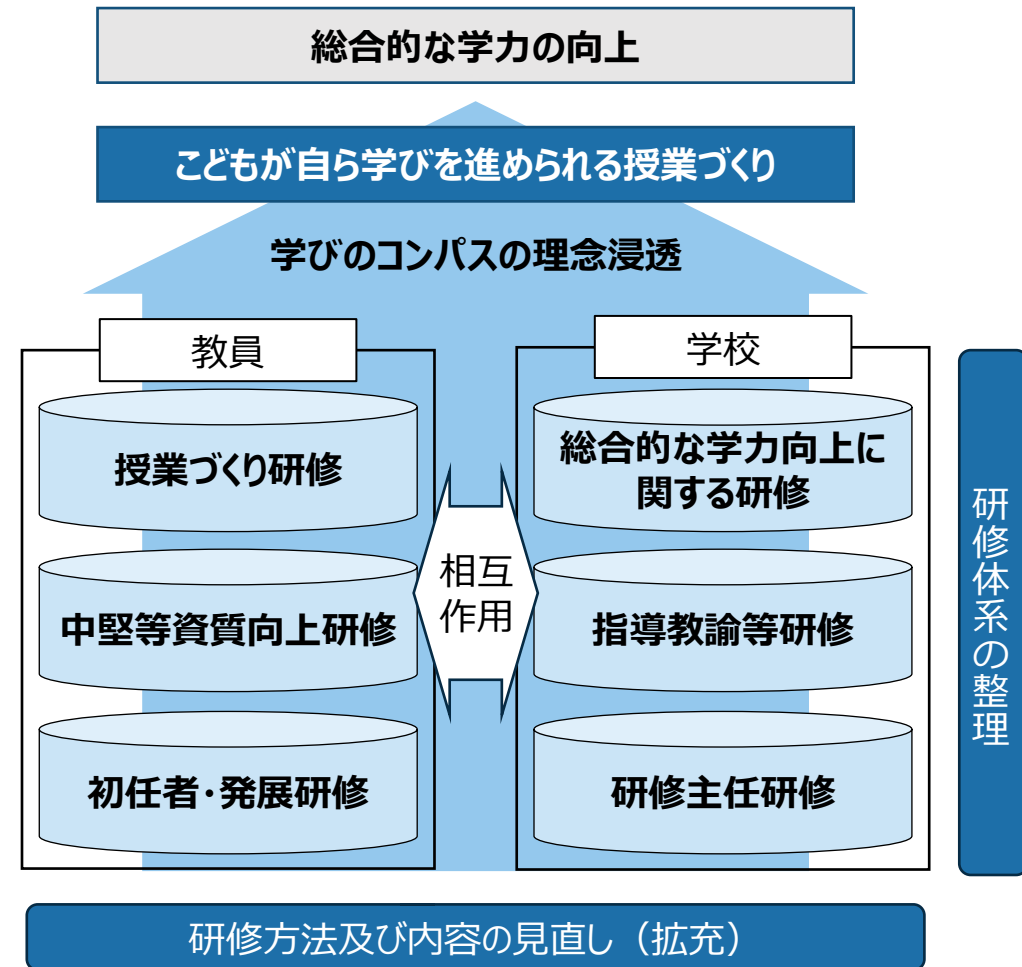
- 教員の授業力向上
- 「学びのコンパス」に基づいた授業改善の加速
- 校内（学校群内）における学び続ける教職員集団の形成

【内容】

- 経験年数や役割に応じて、授業改善に資する研修を体系的に実施
- 教員自らが課題を設定し、対話を繰り返しながら解決策を見いだす探究型研修などを充実

【効果検証】

- 各研修受講後のアンケートや研修レポートによる定性・定量的な評価



【拡充】授業改善に資する研修の実施

【現状】

- 初任者・発展研修、中堅教諭等資質向上研修を実施
(研修の趣旨)
 - ・こどもが自ら学びを進める授業の視点をもつ
 - ・授業を通して育む資質・能力を改めて確認
- 指導教諭等研修、研修主任研修を実施
(研修の趣旨)
 - ・初任者を含む若手教員への育成理論を学ぶ
 - ・校内研修の推進に向けた取組と推進への視点

【現時点での効果～研修アンケートより～】

- 授業の改善方法を得るだけでなく、他の受講者との対話を通して、新たな問いが生まれ、今後の更なる授業改善に向けた知見を得ることができた。

【今後のスケジュール】

- 7～8月 指導教諭等を研修講師として活用
- 9～11月 小中学校における授業づくり研修の実施



【目的】

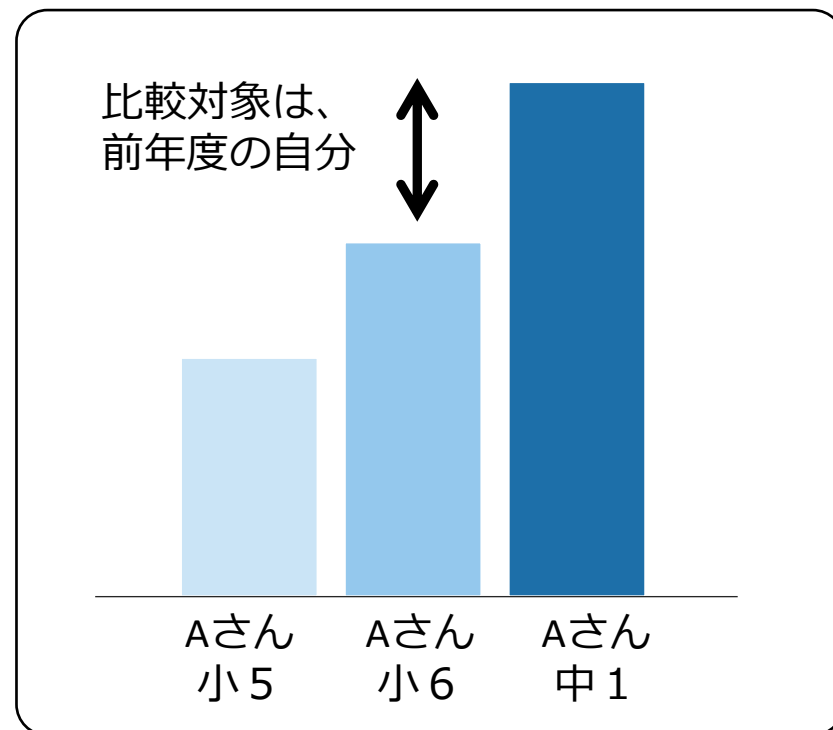
- こどもによる学習状況の把握と、改善に向けた意欲の向上
- 学校が調査結果を活用し、個々のこどもの学力の変容を把握
- 教育委員会及び学校が、教育施策及び自らの教育の成果と課題の把握・検証

【内容】

- 項目反応理論（Item Response Theory: IRT）に基づいた調査を経年を実施し、個々のこどもの学力の変容を把握
- こどもの学力の変容を把握し個に応じた指導を充実

【今後のスケジュール】

- 9月下旬 調査結果を返却
- 10月 調査結果の活用研修会を実施



<対象>

小学校第4学年～中学校第2学年

<調査教科>

国語・算数・数学・質問調査

各取組の基盤となるもの

こどもの学力の変容把握を見取って
教育活動の点検・評価を行う